

保健体育科

主任：藤井 勝 幸

(1) 今年度の目標

- ① 選択した種目の技能を高めることによって、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続していける資質や能力の育成
- ② 実技を通して、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上
- ③ 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成

(2) 主な取り組みの計画

- ① 選択した種目の技能を高めることによって、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成
 - ア 集団的活動や自己の身体表現などの活動を通じてコミュニケーション能力を育成するとともに、基礎的な運動の技能や知識を生徒の状況に応じて伸長させる。
 - イ 練習方法や戦術を考えるなど、お互いに話し合う場面を作ることにより論理的思考力を育む。
- ② 実技を通して、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上
 - ア 年間計画に従って運動を適切に行い、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。
 - イ 健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断に基づく意志決定や行動選択を行い、適切に実践していくための思考力・判断力などの資質や能力の基礎を培う。
- ③ 保健の授業を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成
 - ア 自分や集団の健康についての理解を深めることで、生きがいを持ち、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにさせる。
 - イ 社会生活と健康についての理解を深めることで、自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び健康的な社会環境づくりなどを実践できる資質や能力を育成する。

(3) 授業アンケートの結果と分析

運動量についてはどの学年も80%を超える生徒が「ちょうど良い」と感じている。しかし、**体力が向上したか**という質問に対しては、「向上した」「少し向上した」と答えた生徒は、1・2年生は約55%、3年生は約65%であった。運動量的には、ほぼ生徒の欲求通りの適度な運動量であるが、1・2年生の2週3時間の授業では体力が向上したと感じる生徒は少なく、3年生は2週5時間の授業なので向上したと感じる生徒が多いのかもしれない。

上達するためにいろいろな練習方法が体験できたかという質問に対して、各学年

とも約80%の生徒が「とても出来た」「少し出来た」と答えたのに対し、うまく出来ないときに個別の指導をお願いした生徒は、1・2年生は約10%、3年生は約25%であった。3年生になると授業時数も多く、また、試合中心になるためかうまくなりたい・負けたくないという気持ちが働くのかもしれない。

準備や後片付けなどが自主的に出来たかは、「いつも」「たいてい」が各学年とも約80%以上。服装の整備や時間の厳守など規律ある授業態度が身についたかは、「いつも」「たいてい」が各学年とも約90%以上となっている。大半の生徒が授業に対して真面目に取り組んでいると考えられる。

健康や安全についての実践力や生涯を通じて健康的な生活が出来る能力が身についたかという質問に対しては、各学年とも約60%の生徒が「身についた」「少し身についた」と答えている。これは、保健の授業だけでなく、集団行動や体育理論などの効果も考えられる。

(4) 今年度の成果と課題

① 選択した種目の技能を高めることによって、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成

ア 生徒は活動意欲を持って授業に取り組んでおり、課題を与えるとそれを習得しようとする姿勢がうかがえる。基本動作中心だったので、能力の高い生徒にとってはやや不満であったようで、もう少し試合を増やすことも考える。

イ 今まで以上に個別に声をかける回数を増やす。体育が苦手な生徒に対しては、個別指導の機会を多くし、生徒同士での学習ができるように工夫していく。

② 実技を通して、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上

ア 生徒の興味関心に応じて体を動かす楽しさを感じさせるように心がける。

イ 授業の準備や片付けを、引き続いて指導し、規律ある生活習慣が身につくよう周知徹底する。

③ 保健の授業を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成

ア 授業の内容をいかに実践していくかの具体例を出して、自らの健康問題の解決・実践の手助けになるように努める。

生徒が習ったことを実践していきたいと思うような授業の工夫（プリント等の教材を工夫）をしていく。心肺蘇生法などの、実習をともなう授業、視聴覚教材の内容を精選していく。

イ 課題学習は十分に計画を立てて今後も実施したい。